


平成29年度 部長マニフェスト 都市整備部長

部の概要		65人	
所属課と人員 (H29.7.1現在)	都市計画課、道路交通課(工事担当含む)、下水道課、国立駅周辺整備課(富士見台地域まちづくり担当含む)、南部地域まちづくり課(農業振興担当を含む)		

部の運営方針

都市整備部の所掌する事業のうち都市整備部参事が担当する事業と共に、連携して総合的にまちづくりを進めていく。  
 国立市が、ずっと住み続けたいまちであり続けるには、先人から受け継いだ環境と景観を守っていくことが必要です。国立市は、「広い空」を志向し、自分で歩く、自転車で動くというまちづくり、南部地域の豊かな自然や歴史ある文化とともに発展するまちを目指します。また市制施行50年を迎え市制施行のきっかけとなった富士見台地域は高齢化が進んでいます。居住の安定を大切にしつつ、積極的に若者、子育て世代を呼び込むと共に高齢者が安心して暮らし、多世代が集い支え合うまちを目指します。  
 【国立駅周辺整備】旧駅舎再築、高架下市民利用施設、自転車駐輪場整備、駅周辺の道路整備、南口複合公共施設整備など、国・東京都の補助金、公民連携手法の活用により財政面で最も有利となる制度情報に注視しながら各事業を進めていく。特に国立駅周辺まちづくりの核となる旧国立駅舎再築事業は、再築用地を平成29年2月に取得した。再築に向け関係機関等と協議しながら適切に事業を進めていかなければならない。  
 【富士見台地域まちづくり】  
 都営矢川アパート建替に伴い生じる矢川公共用地(都有地)の活用計画の検討、UR国立富士見台団地再生事業を、エリア単体ではなく富士見台地域全体のまちづくりの中に位置づけ富士見台地域まちづくりビジョンとして策定を進める。親しまれる緑豊かな環境を活かした住空間を創出しつつ、国立市が目指すべき「地域包括ケアシステムの構築」に則して、少子高齢社会の進展に対応した。だれもが住みやすいまちづくりの方向性を、市民懇談会やパブリックコメント等を実施していくなかで、富士見台地域まちづくりの方向性を示すまちづくりビジョンの策定を目指す。  
 【南部地域まちづくり】南部地域の豊かな自然や歴史ある文化とともに発展するまち、狭隘道路の整備など安心安全な基盤整備や町名地番整理など市民サービスの向上を目指し、多部署と連携しながら「総合的な土地利用の誘導」「都市基盤の整備」「良好な住環境の整備」を推進するための事業を実施する。また、公共用地の取得、処分等に関する業務、国立市土地開発公社に関する事務を適切に実施する。  
 【農業振興担当】  
 地域経済の活性化、住民生活の向上、谷保の原風景の保全などを担う市内の農業者の自主的な努力が助長され、活力が最大限に発揮されるよう事業環境を整備することで、公共の福祉の増進を図る。

項目	具体的内容	達成状況(年度末評価)	達成度
1 旧国立駅舎再築事業	旧国立駅舎の再築するために必要となる技術的な建築課題等の整理を部署間連携により行う。また、旧国立駅舎の利活用方法に関する検討を行い、旧国立駅舎が魅力的な施設となるよう努める。	関係部署と連携し建築審査会での同意を得ることができ、旧国立駅舎再築を当初のスケジュールどおり建築する目的が果たした。旧国立駅舎再築後の利活用、魅力的な施設にするよう実施設計に反映するため市民ワークショップを行うなど機運醸成にも取り組んだ。	A
2 複合公共施設整備・高架下市民利用施設整備事業	【複合公共施設整備事業】 事業者との対話を通じて、事業手法の整理、検討を行い、事業希望者より企画提案を募るための準備を行う。 【高架下市民利用施設整備事業】 国分寺市と協議し、施設の維持管理等に関する協定を締結する。施設の備品調達等、平成30年度に予定している開設に向けた準備を適切に行う。建築営繕課に施工依頼した工事を適切に完了する。	国立駅駅前での土地利用に関する企業者の考えが表面化され、複合公共施設の在り方についても企業者の考えを確認しながら進めることが重要と判断し本施設に関する企画提案を募るスケジュールをローリングさせた。複合施設の構成、事業実施時期、財政面での費用対効果などあらゆる観点から検討し、次年度以降、早急かつ丁寧な意思決定までのプロセスを積み上げ、国立駅周辺のまちづくりを確実に進めていく。高架下市民利用施設整備事業については生活環境部へ業務移行。	C
3 矢川公共用地活用・富士見台地域まちづくりビジョン検討事業	広く市民の意見を聴きながら、「矢川公共用地(都有地)活用計画案」を練り直し、計画案、計画をまとめ、東京都に提出することができるよう部署間連携して進める。富士見台地域の関係者と積極的に関係性を結びながら、有識者の知識も得つつ、富士見台地域まちづくりビジョンを策定する。	矢川公共用地活用計画案の修正、東京都との協議や庁内関係課との調整を重ね「矢川公共用地(都有地)の活用計画」を策定した。富士見台地域も市民懇談会やパブリックコメントを通して得られた市民意見、有識者からのアドバイスを反映し、富士見台地域まちづくりビジョンを策定した。	A
4 南部地域整備事業	南部地域における自然や文化遺産を保全しつつ、都市基盤と良好な住環境を整備する。道路拡幅整備事業のうち、八王子道の用地取得はこれまで全体の6%が取得済みであり、29年度は16%の完了、全体で22%の進捗を目指す。狭い道路に関する新たな整備方針を策定する。	道路拡幅用地の取得に関する地権者との協議を積極的に行い、複数の案件で用地売買契約を完了した。進捗率は事業費ベースで4%から40%となった。南部地域狭い道路の整備方針、整備要綱を策定し、平成30年度からの運用に向けて新たな制度を構築した。	A
5 町名地番整理事業	「青柳二丁目・三丁目」地区を29年度に完了する。「泉三丁目・矢川三丁目」地区は、30年度の実施に向けて議案資料等の作成を行う。	「青柳二丁目・三丁目」の新設を完了した。30年度の実施に向けて「泉三丁目・矢川三丁目」地区にかかる議案資料等の作成を行った。	A
6 城山さとのいえの運営を通じた城山地区の里山づくり推進による農業振興及び市民生活向上事業	八ヶ岳に面した城山さとのいえ立地を生かし、農の環境を市民へ周知、利用促進と共に農業収穫、体験農園の充実を図る。併せて庁内連携のもと新たな事業展開を目指す。	平成29年度、城山さとのいえの来館者は前年を上回る実績を上げることができた。また、収穫体験等のイベントは他部署連携のもと、前年より11回多い154回の企画を実施することができ、農業振興に資する成果を上げることができた。	A

【達成度】 A...100% B...80%以上100%未満 C...50%以上80%未満 D25%以上50%未満 E25%未満